

# 新しい時代を担う体力づくり

## 第4回

### 新しい行政運営の先進事例に学ぶ

養父市の行政改革は、「サービスは高く、コストは低く」を合い言葉に、市職員の約半数が14チーム・35班に分かれて、行革課題の解決に向けた調査・研究を行う傍ら、事務事業評価に取り組み、効果の薄れた事業やコストの見直しを進めています。

しかし、課題の中には従来手法では改善が難しいものがあり、議論が難航しています。このため、職員自らの自主的な能力開発を促す一方、新しい行政運営の考え方や手法を学ばせるため、先進地の視察を行っています。

今月号では、この先進地視察の報告書を元にくつかの事例を取り上げ、他のまちが行政改革のためにどのような工夫をしているのかを紹介してみたいと思います。

#### ◎市民が参加して行政の評価を行う

予算編成方法の見直しプロジェクトチームは、行政評価を予算編成に生かす方法を調査・研究するために埼玉県志木市（人口約6万8千人、面積約9平方キロメートル）を視察しました。

同市では「まちづくりを市民自らを中心となつて考え、行動して、市民と市が同じ目的のために協力して働くこと」によって行政を推進する「ことをまちづくりの基本理念として、あらゆる行政分野に市民の参加を図っています。視察のテーマとなつた「行政評価」も、市民参加の仕組みの一つとして推進さ

れているもので、市民が委員となつて行政活動をチェックし、その結果について市民に分かりやすく伝えることに重点が置かれています。

同市が取り組んでいる行政評価は、「事前評価」と「事後評価」の2つに分けられ、それぞれに職員自らが行う「自己評価」と市民が行う「市民評価」、それに市長が行う「市長評価」が実施されています。

事前評価は、総合計画に位置づけのある新規事業について、実施予定年度の前年度に行う評価です。

市の担当が作成した事前評価書をもとに、市民の行政評価委員会が「市民評価」を実施します。まず、個々の委

員が次の5つの「ものさし」で評価を行い点数をつけます。

- ①市民が必要としている事業なのか。
  - ②市がやるべき事業なのか。
  - ③予定している事業の内容でよいのか。他のやり方もあるのではないか。
  - ④予定している事業で目標としている成果が得られるのか。
  - ⑤お金がかかり過ぎるのではないか。
- その後、全員で議論をして次のいすれかの方向を決めて市長に答申します。
- ①計画したとおり実施する。
  - ②事業実施してもよいが改善を行う。
  - ③事業内容とやり方をもつ一度考え直す。
  - ④事業を元から考え直す。

答申を受けた市長は、「自己評価」と「市民評価」を参考に、「市長評価」を実施します。これは総合評価であり、予算案や人事管理計画の策定に活用することにも、市長が説明責任を果たすために、市民で組織する評価委員会の評価に自らの意見を加えて市民に結果を公表しています。

次に事後評価ですが、これは前年に行われた事業や継続事業について評価を行うものです。この場合も「自己評価」、「市民評価」、「市長評価」という手順で実施されます。

事後評価における市民評価の方法は、基本的に事前評価と同じですが、評価をする「ものさし」が異なります。事後評価の基準は、次の4点で評価され、事業の継続実施に対する市民の意見がまとめられます。

- ①今後、市が行う必要がある事業なのか。
- ②予定していた目標が達成できたか。
- ③お金をかけ過ぎずに実施されているか。
- ④このまま事業を続けていくと成果が期待できるか。

そして、事前評価と同様の手順で市としての意思決定が図られ、市民や議会に公表されます。

志木市における行政評価は、今まで市民の目の届かない所で決定されていた事業の新設、改廃の過程を公表することで、行政運営の透明性と公平性を